

## アスパラガス雨よけ施設の低コスト化に向けて

【平成 29 年 3 月 24 日掲載】

世羅町の農事組合法人うづと（代表理事 兼国幸秀（かねくにゆきひで）、構成員 57 名）では、アスパラガスの栽培（ハウス 33a、露地 80a）に取り組んでいます。露地栽培では茎枯病の多発などによって低収量となりやすく、安定的に高収量を得るには雨よけ施設が必須です。しかし、従来型の農業用パイプハウスの資材が高騰しているため、導入のボトルネックとなっています。そこで、従来型に比べて大幅な低コスト化が期待できる簡易な雨よけ施設の有効性の検証に、東部農業技術指導所の支援のもと取り組んでいます。

今回着目したのはブドウのトンネルメッシュの利用です。これを基本にアスパラガス栽培に適するように改良を加えました。10a 当たりの設置費用は施工費を含めて約 200 万円と従来のパイプハウスに比べて 3 分の 1 以下と極めて低コストです。また、設置作業については農業者自らが行うことが可能です。今回は 12a の既存の露地圃場に同法人が自力で施工しました。

広島県園芸振興協会（事務局：全農ひろしま）が 3 月 16 日に開催した現地検討会では、約 50 名の関係者が参加し、施工方法などについて活発な質疑応答が行われ、関心の高さがうかがえました。施工を行った兼国代表は、「アスパラガス栽培では、茎枯病対策として雨よけ施設が必要と考えており、今回の低コスト施設には大いに期待している。」と話されていました。

東部農業技術指導所では、実用化に向けて、施設の強度やアスパラガスの収量・品質に及ぼす影響を中心とした検証を、関係機関の協力のもと取り組みます。



【完成した低コスト雨よけ施設】



【代表の話を聞く現地検討会参加者】